



【写真 1】

マラリア一斉検査（2014 年 4 月）の様子。手前右側が、マラリア検査キットを使って検査をする保健調査員。



【写真 2】

蚊帳使用モニタリングの様子。各家庭を訪問し、聞き取り調査を行っている。左側が当会スタッフの原田。



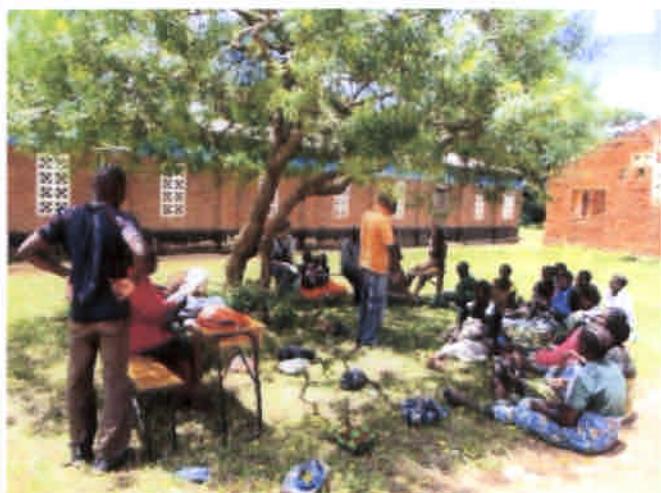
【写真 3】

蚊帳使用モニタリングの様子。蚊帳が正しく張られていなかった家庭で、蚊帳の張り方を指導する、当会専門家の幕内看護師／助産師（右）。



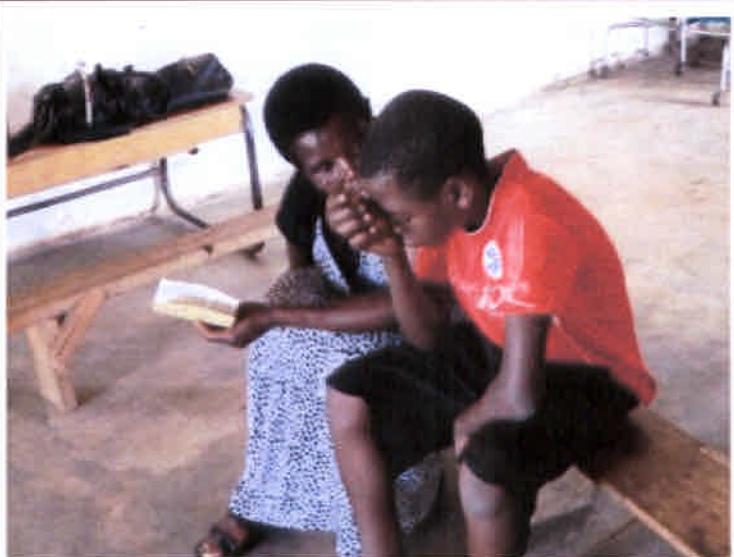
【写真 4】

妊娠婦検診の様子。現地保健センター所属の看護師とともに、妊婦を健診する当会専門家の幕内看護師／助産師（左）。



【写真 5】

母親学級で母子保健委員会メンバー（中央）が妊婦に対して講習している様子。奥が当会専門家の長谷島医師。



【写真 6】

HIV/AIDS Testing and Counseling (HTC) を受けに来た青年に、プレカウンセリングを行うムビーハ看護師（左侧。チテゼ保健センター所属）。



【写真 7】
HIV/AIDS Testing and Counseling (HTC) に集まってきた子どもたちに HIV/AIDS 予防に関する教育をする保健調査員（中央）。



【写真 8】
健康教育ワーキンググループで作成された、HTC の際に使用される健康教育の教材の例。この教材は、主に 5 歳～6 歳までの児童に対し、HIV/AIDS の感染ルートを説明するもの（左上：安全ピン、右上：歯ブラシ、左下：血液、右下：カミソリ）。



【写真 9】
前フェーズに建設された井戸（奥）の近くに植林されたパパイヤの苗木。

	<p>【写真 1 0】 エコサン肥料と尿の使用についての啓発を目的とした、デモプロットの様子。</p>
	<p>【写真 1 1】 エコサン肥料のデモンストレーション農地で行われたワークショップの様子。集まった村民にプレゼンテーションをする農地ボランティア（左奥）。</p>
	<p>【写真 1 2】 エコサントトイレの使用状況を確認する「エコサンプロモーター」（左）。右奥は当会現地スタッフのチムワザ氏。</p>



【写真 1 3】

エコサントトイレ建設ワークショップで、エコサンビルダーたちに指導を行う、当会専門家の江崎建築士（中央）。



【写真 1 4】

健康教育ワーキンググループで次回使用する健康教育の教材について話し合う保健調査員たち。右側が当会専門家の幕内看護師／助産師。



【写真 1 5】

健康教育ワーキンググループによる、マラリア予防の健康教育の様子。中央奥が当会専門家の幕内看護師／助産師、左端が当会専門家の長谷島医師。



【写真 1 6】

健康教育ワーキンググループによって作成された教材の例。この教材は、マラリアの感染ルートについて説明するもの (Udzudzu : 蚊、Malungo : マラリア)。



【写真 1 7】

栄養調査にて、幼児の上腕周囲径を計測する保健調査員。



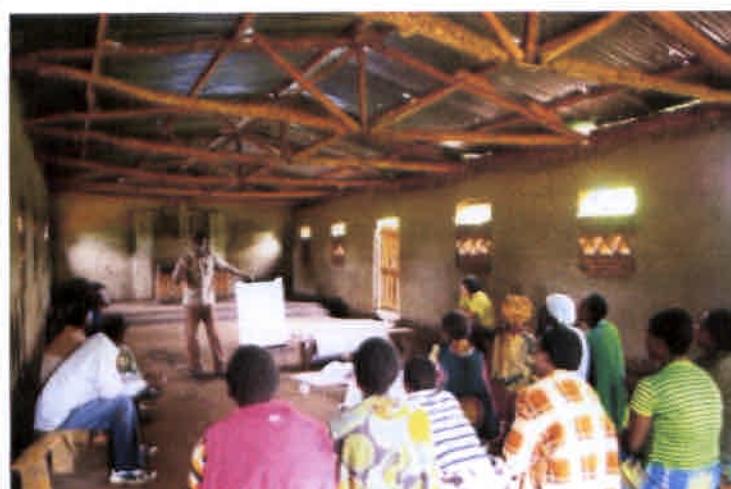
【写真 1 8】

栄養不良児を対象にした家庭訪問で、栄養指導をしている様子。右手奥が当会専門家の幕内看護師／助産師。



【写真 19】

植林されたモリンガの木(左手の村民の側の木)を確認する当会スタッフの仙道(右側)。



【写真 20】

モリンガビジネスグループに対するリーダーシップ研修の様子。右手奥が当会スタッフの仙道。



【写真 21】

当会全事業地のドーウ県ナンブーマ地区のナンブーマ・アソシエーションを視察に訪れた、モリンガビジネスグループ。



【写真 2 2】
モリンガ石鹼作りのワークショップの様子。



【写真 2 3】
自分たちで制作したモリンガ石鹼を、事業地内のカニエレレマーケットで販売するモリンガグループのメンバー(中央の白いシャツの男性)。



【写真 2 4】
巡回診療に来院した患者を受け付けている様子。カルテの書き方を確認する、当会専門家の幕内看護師／助産師(手前)と長谷島医師(奥)。



【写真 2 5】

現地医療者に対して、診断方法を指導する当会専門家の長谷島医師（右手奥）。



【写真 2 6】

雨季に雨の降る中、巡回診療を開設。薬の在庫を確認する当会専門家の幕内看護師／助産師（中央）。



【写真 2 7】

現地医療者とともに患者を診断する当会専門家の長谷島医師（右）。